



「しらせ」からの贈り物を子供たちへ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は8月4日（火）、静岡科学館るくる（静岡市）において「南極の氷をさわってみよう」を企画し、海上自衛隊が活躍する南極地域観測協力支援活動をPRした。

これは同館主催のイベントであり、企業や団体が独自の専門的な研究活動について市民向けに紹介するもの。今回は海上自衛隊が運用する砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷を使い、「見て、聴いて、触れる」をテーマに、南極の氷に触れたり、クイズや子供用制服試着、ぬりえコーナーを設け、子供連れの家族など118人が参加した。

はじめに、海上自衛官が南極地域観測と海上自衛隊の関わりや、南極の氷と普通の氷の違いなどについてクイズを出題。子供たちは目を輝かせながら手を挙げて解答し、楽しく南極について学んでいた。南極の氷体験では、雪が長年降り固まってできた氷の中から、1万年以上前の空気が目覚め、現代に弾け飛ぶ神秘的な現象に、来場者の興味と関心が寄せられた。

また、砕氷艦「しらせ」のタペストリーを背景に、海上自衛官の子供用制服を試着して実物大のコウテイペンギン人形と並んで写真を撮ったり、ぬりえに夢中になる子供たちの笑顔で溢れた。

参加した子供たちからは「しらせからの贈り物、冷たくて気持ちいい」「自衛隊のお兄さんから聞いたことを夏休みの自由研究にしたい」といった感想が寄せられた。

静岡地本は、今後もこのような企画に積極的に参加して、世界で活躍する自衛隊の姿を広報して、未来ある子供たちに夢と希望を与えていく。

インターンシップ in 御前崎分屯基地



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は8月6日（木）、高校生対象のインターンシップを行い、航空自衛隊御前崎分屯基地（御前崎市）を訪問した。

今回参加したのは、航空自衛隊に興味があり、将来の進路の一つとして考えている高校生男子6人と女子1人。30度を超える気温の中、同分屯基地に集合した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、検温手の消毒、そしてマスクを装着して分屯基地内へ。副隊長の挨拶後、航空自衛隊と御前崎分屯基地の概要説明を受け、その後隊員が訓練で使用する防弾チョッキ、盾、磁石式電話機などの装備品を実際に手に取り体感した。

磁石式電話機を体感した生徒は「うわ！聞こえる！」と驚きの声をあげ、防弾チョッキを試着した生徒は「こんなに重いものを着て訓練するのはすごい」と感想を話していた。

その後、基地の役割や施設の説明を受けながら基地内を1周。通信器材の見学や防火服の試着などもあり、約2時間という短い時間ではあったが充実した見学を行った。

参加した生徒たちからは「いろいろな場所を見学できて良かった」「航空自衛隊に入隊できるように頑張りたい」と前向きな声がかれた。

静岡地本は今後も学生などに対する見学を実施し、隊員とのふれあいを大切に、今後の募集活動に繋げていく。

お伝えします！女性自衛官の仕事



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷子康征一等空佐）は8月11日（火）、袋井地域事務所（袋井市）の臨時勤務広報官として、女性海上自衛官の小林ななみ海士長を迎えた。

9月4日（金）までの期間限定ではあるものの、女性から見た自衛隊の魅力を伝えることが可能となった。

11日に初出勤した小林士長は、まず静岡市の本部庁舎において、大串秀樹副本部長に臨時勤務の申告を行った。大串副本部長からの「部隊での経験を活かして自衛隊の魅力を伝えて欲しい」という激励の言葉をやや緊張した面持ちで受けた小林士長は、続いて募集課長の山本健太郎2等陸佐から「本心に待ちにしていた」との歓迎の言葉と小林士長のために作られた名刺を受け取り、「がんばります！」と嬉しそうな笑顔を見せながら元氣よく答えていた。

午後からは、磐田市役所への挨拶や磐田駅北の複合施設「天平のまち」に設置してある募集広報ブースを研修し、事務所においては広報業務の基礎的事項について先輩広報官や所長から熱心に学んでいた。14日（金）には早速、昼のラジオ番組に出演。入隊したきっかけや海上自衛隊での貴重な経験などを、県民やインターネットラジオで聴いている全国の人に紹介した。小林士長は、今後も高校訪問や小学校での職業講話などを行い、袋井所の一員としてこの仕事の魅力を発信していく。

静岡地本は、自衛官を目指す女性やその家族に対し、小林士長の力を借り、実体験に基づいた今まで以上に詳しい説明に努めるとともに、自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くす。